

世間に裏表は ありがちですが、夜間学校ニュースは・・・
すいません。うっかりミスで 裏も表も 表 ???

「人生、裏表無く生きなければ」

「裏も表も一緒だけど、違うのと換えて・・・」「すいません、皆同じなんです」

夜間学校ニュースの前号は、裏も表も、表で、「裏面に地図があります」と書いてありましたが、地図は刷られていませんでした。それで、冒頭の会話と成った次第。

印刷ミスというか、表面を印刷した後に、原稿を入れ替えず、紙だけひっくり返して印刷したために、裏表同じ内容となってしまうました。

不完全なものをお配りして、申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。

「世間も、人生も、裏表無く、一直線」というのが望まれますが、「ニュース」は、裏表あるのが正しい。間違ったことを、「夜間学校ニュースは、裏表無し」などと、問題をすり替えてはいけませんネ・・・。

ところで、何が正しく、どれが表で何が裏なのかは、時として、とても判断に苦しむところがあります。

「生活保護を受けていたけれど、飯場の仕事があったので、生保を打ち切って、飯場にいった。しかし、仕事が無くなり、また、戻ってきた。もう一度、生

を具現化したというわけでも

活保護を受けることができるだろうか。」

この人にとっては、自分で稼ぐ努力をするために、飯場に入って、生活保護を切ったのですから、正しく無いこと⇨悪いことをしたつもりはない。

しかし、その手順が問題です。役所のケースワーカーに、飯場に入って生活を立て直すつもりだから、生活保護を打ち切ってください、あるいは、一時停止にしてくださいと、伝えていなければ、ケースワーカーから見れば、「失踪⇨行方不明」となり、生活保護廃止の手続きをとることになります。

住んでいたアパートを出るにしても、出る日を管理人や家主に伝えて、部屋の後片付けをし、明け渡すのが、世間一般のルールです。簡宿を出るのは違うルールがあるわけです。

「そんなこと、誰も教えてくれなかった」ということもあるかも知れませんが、自分の思いとは別に、他人から見れば、「身勝手」に見えるという事は、頭の隅に置いておく必要があります。

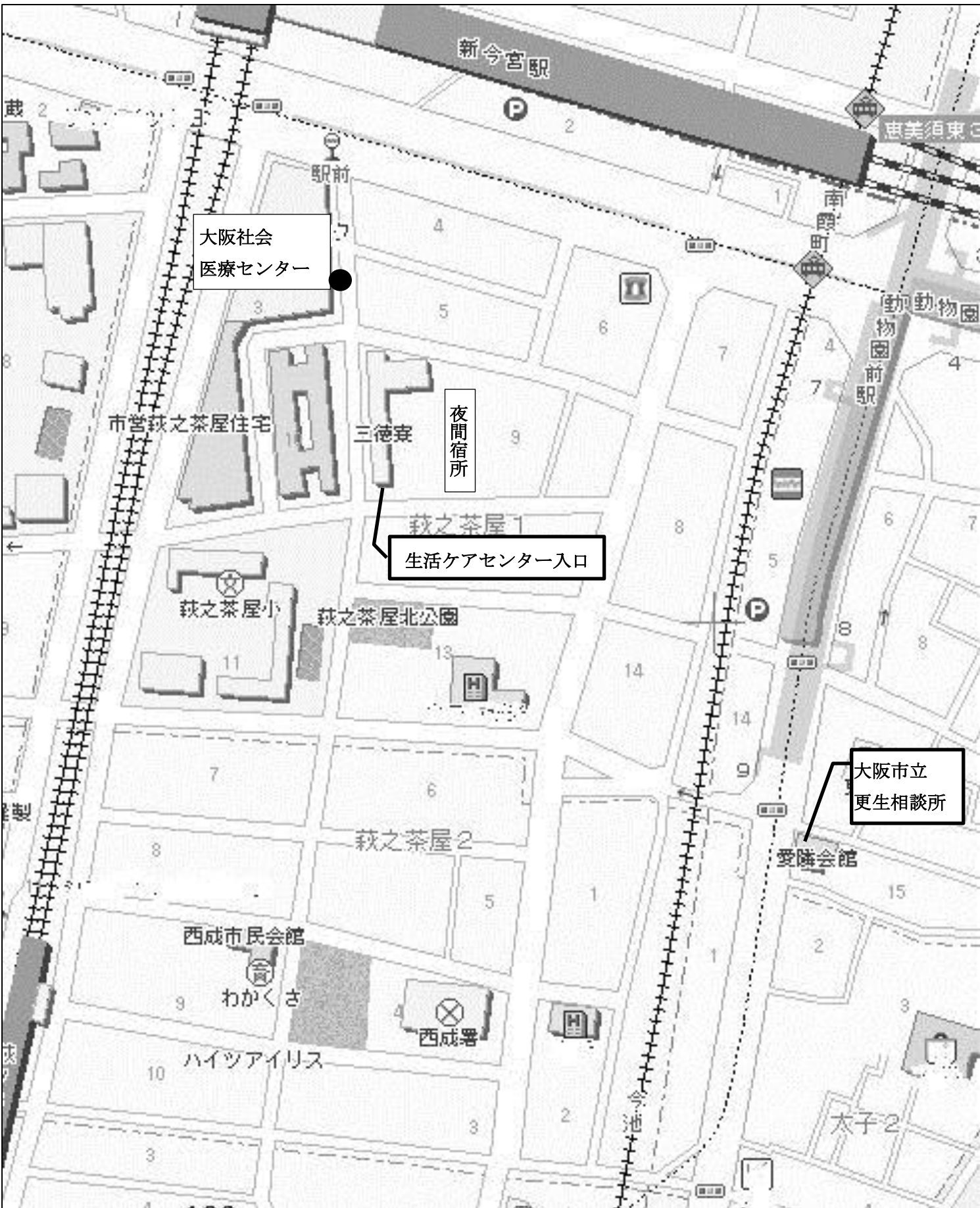
その上で、再度、生活保護申請することは「有り」です。「困窮の事実」によって、判断されます。

市更相は釜ヶ崎（あいりん地域）の福祉相談窓口です。

夜間宿所利用・炊き出し利用、センター周辺や公園での野宿・仮小屋生活から、アパート生活へ！

市立更生相談所（市更相）は、釜ヶ崎（あいりん地域）内の簡宿利用者、夜間宿所利用者、そして、地区内で野宿する人を担当する福祉の相談窓口です。

役所は管轄（縄張り）にこだわりますから、市更相の窓口で「天王寺公園で寝ていた」というと、「天王寺区役所で相談して下さい」といわれます。「鶴見橋商店街で寝ていた」というと、「西成区役所へ行って下さい」といわれます。この点、相談に行く前に、しっかり確認しておいて下さい。



最低でも、相談に行く前の晩は、夜間宿所かセンター周辺あるいは山王・太子など市更相周辺で寝泊まりしていたことが必要です。地区内の簡宿に止まっている人が、わざわざ野宿していく必要はありません。医者に診てもらいたい人、生活保護の相談（施設入所・居宅保護）は、市更相へ。